

本町の庁舎は昭和37年に竣工し、今年で築56年。早急な建てかえが必要な状況です。今回は総務課の庁舎建設担当職員に同行し、さつま町へ視察に伺いました。



分かりやすい業務内容表示

さつま町役場新庁舎は、『訪れるすべての皆様が利用しやすい庁舎』を基本として、高齢者をはじめ、障がいのある方、お子様連れの方まで安心して利用できるユニバーサルデザイン仕様となっており、総事業費17億5千万円をかけ平成26年度に完成しました。



天井の高い議会

耐震性、耐久性を重視し、防災拠点施設としての機能を備え、また、自然エネルギーの有効活用や省エネルギー化を図るため、太陽光発電設備やLED照明器具を導入し、経済性を重視した、環境にやさしい庁舎となっていました。

各課の業務内容もわかりやすく表示しており、スペースも広く、住民の方にやさしい施設となっていました。また、各課があるフロアは仕切りがないため、状況に応じて各課のスペースが変更でき、キャビネットも腰の高さまでと統一され、すっきりとした印象でもとても良い施設だと感じました。

どの町もそうですが、本町でも

連載 No.58

にし 西 終 良 presents

うがみやぶら

(こんにちは)

鹿児島事務所です!

今回は、さつま町役場新庁舎視察研修についてレポートします。

庁舎は町を代表する施設の一つです。新庁舎は、すべての住民が活用しやすく、災害時に拠点となり、また誇れる施設を、町をあげて作っていきましょう!

それではまた来月号まで、どうかさしきばていたばりよー!



通路スペースも広く、導線が確保されています

鹿児島事務所って
どんなところ?

知名町鹿児島事務所は鹿児島における知名町の拠点施設として各種業務を行っています。また、知名町というブランド名を広めるため、物産展や各種イベントを通じて知名町をアピールしています。

活動紹介は
Facebook
ページをチェック!



最後まで、あるがまま行く

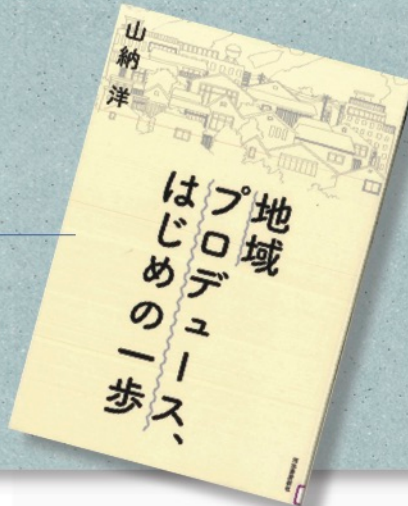
日野原 重明/著 (朝日新聞出版)

自らの老いと死を受けとめながら、どう「前を向いて」過ごすか。105歳、亡くなる直前まで書き続けた、日野原重明の最後のエッセイ。『朝日新聞』be 連載から44本を選びすぐって収録する。

地域プロデュース、はじめの一步

山納 洋/著 (河出書房新社)

プロジェクトのきっかけは、「誰かのジレンマ」に気づくこと。素人から始めて、1000回以上のイベントを開催した著者が、「地域でのプロジェクトのはじめ方」を、数々の事例を交えて紹介する。



問 町立図書館
☎ (93) 4356
<http://www.china-lib.jp/>

🔍 ケータイで
読みたい本を
Let's 検索!

